

リンパにかかわる病気とは？

リンパ液は全身を巡っているため、リンパの不調による症状は全身のどの部分でも起きる。



むくみには、「リンパ浮腫」という危険な病気に関係している場合がある。

リンパ浮腫は、リンパ液の流れが障害され、組織間質内に水分などが溜まり、むくみが慢性化した状態をいう。

いったん発症すると完全に治ることは難しく、多くの場合一生付き合わなければならない病気だ。



一 次 性 (原 発) リンパ浮腫

先天的なものを含み原因不明(全体の約6~10%)



二 次 性 (続 発 性) リンパ浮腫

がんの手術に伴うリンパ節切除や、放射線治療、外傷、感染などで起きる(全体の約90%)



リンパ浮腫が進行するとどうなるか？

リンパ浮腫は、体（体幹）や手・足のさまざまな部分で発症し、その症状は初期から重度まで大きく4つのステージに分類できる。

リンパ浮腫の病気（ステージ）

病気（ステージ）	特徴
潜在性リンパ浮腫 （ステージ0）	リンパ管路の異常が確認される時期。 まだむくみの認められない発症初期には、側副循環路が働いているため、リンパ液は迂回して流れており、特別な障害は発生しない。
可逆性リンパ浮腫 （ステージ1）	腕や足に軽いむくみがみられるが、皮膚はまだ柔らかく、指で押すとへこみ、その痕が残る。皮膚は青白く、冷たく感じられる。むくんだ腕または足をあげておけば元に戻る時期。
非可逆性リンパ浮腫 （ステージ2）	皮膚に柔らかさと弾力がなくなり、指で押してもへこまなくなり、晩期には皮膚が線維化して硬くなることもある。腕や足を上げても、元に戻らない時期。
象皮症 （ステージ3）	皮膚組織にある膠原繊維が異常に増殖することが原因で、大きくむくみ、皮膚が変形し表面が硬くなる。象の皮膚に似てくるため、象皮症といわれる。



悪性リンパ腫とは、リンパ系組織から発生するがん。リンパ球が成長していく過程で悪性化したもの。また、リンパ球は、リンパ管だけではなく血管の中も通過するため、体のさまざまな部位に生じる可能性がある。そのため、白血病と同様に血液のがんの代表的疾患とされ、実は白血病よりも発症頻度が高いがん。



悪性リンパ腫の種類



ホジキンリンパ腫 (全体の罹患者数の約10~20%)

悪性度が低いため、治療により治ることが多い



非ホジキンリンパ腫 (全体の罹患者数の約80~90%)

徐々に進行する可能性



非ホジキンリンパ腫の分類

進行のスピードによって3つのタイプに分類できる。

日本においては、成人の場合、**びまん性大細胞型B型細胞性リンパ腫**と、**ろ胞性リンパ腫**が最も頻度が高いものとされている。

非ホジキンリンパ腫の分類

進行スピードによる分類	該当する非ホジキンリンパ腫の種類
低悪性度(年単位で進行)	<ul style="list-style-type: none">・ろ胞性リンパ腫・MALTリンパ腫
中悪性度(月単位で進行)	<ul style="list-style-type: none">・びまん性大胞性B細胞性リンパ腫・未分化大細胞リンパ腫
高悪性度(週単位で進行)	<ul style="list-style-type: none">・リンパ芽球性リンパ腫・バーキットリンパ腫